



近江度量衡株式会社は、今年で123年目を迎えます(1900年設立)。当社は各種計量機の製造、販売ならびに、これに付帯する事業の経営を目的として、民間企業では滋賀県下初の株式会社として、1900年(明治33年)3月3日に設立。1893年(明治26年)に施行された度量衡法に基づく企業として設立し、以後明治、大正、昭和、平成、令和の一世紀以上にわたり、計量するための近代的な装置を時代に合わせ製造し、今日に至っています。高度な自動計量システム構築等、常に新しい技術の創造に挑戦する技術集団として世の中に貢献し続けている企業です。



代表取締役社長 田中 秀康  
2030年までにSDGsの目標：産業と技術革新の基盤づくり、つくる責任つかう責任、働き方改革などいるんな方面から社内で目標づくりを積極的に行い、働きがいのある住みやすい環境づくりと平等な社会づくりが持続できるよう、事業活動に取り組み貢献できる企業として頑張っていきます。



## 1 節電・省エネの取り組みを強化



2022年度、本社工場に隣接する草津工場にソーラーパネルを設置。太陽光発電システムを導入することにより、工場と本社で使用する電気のほとんどを自家発電でまかなえるようにしました。それ以前から進めていたLED照明への転換も、2022年度内に完了。冷暖房に対しても、従来より低め・高めの温度設定にするよう従業員に呼びかけ、節電に取り組んでいます。加えて、社内のペーパーレス化を促進すると共に、発生した古紙の裏紙を従業員用のメモや控えなどに再利用。紙の使用量や廃棄量の削減を推進しています。



## 2 環境や健康への負荷を軽減

当社には塗装の部門があり、以前は有機溶剤(シンナー)を使った塗料を用いていました。有機溶剤は人体や環境に有害な物質を含み、大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)や強いにおいを発生させます。私たちは従業員の健康や環境への負荷を軽減すると共に、近隣にお住まいのみなさまにも配慮し、自社の塗装工程においてシンナーを使わない塗料への転換を進めています。また、地域における清掃活動などに積極的に参加することで、地域に根差した企業として周辺環境美化にも努めております。



地域清掃活動



## 3 多様性や暮らしに配慮した労働環境の整備



2022年度には社会保険労務士や司法書士に依頼し、就業規定の改定に着手しました。近年、当社は女性従業員が増加傾向にあるため、特に女性の労働環境の整備に注力し、法令に基づき、産休や育休、介護休業といった規定の充実を図りました。就業規則に関しては、従業員への周知徹底を図り、今後の法令の改正や状況の変化に応じて逐次アップデートを行ってまいります。

また、残業の削減も課題としており、定時に仕事が完了するよう作業工程を計画。従業員に対しても、無駄な時間のない作業を実施するよう呼びかけています。仕事の効率化を促進することで、従業員の余暇時間をより多く確保し、ワーク・ライフ・バランスを実現してまいります。



## 4 SDGsをイノベーションの原動力に

当社はお客さまの多様なニーズに対して、企画・エンジニアリングから製造まで一貫して手がける計量装置の総合システムメーカーです。近年のSDGsに対する意識の高まりを受け、その要請に応えることも課題のひとつ。設計段階においては、鋼材の使用量や材料ロス、電力の削減などを目指して創意工夫するよう指示しています。環境負荷を軽減し、同時にコスト削減や生産性向上を実現することで、お客さまにより喜ばれる商品やシステムを開発・提供。私たちにとってSDGsは、イノベーションを起こすためのキーワードでもあると捉えています。



トラックスケールと計量システムの組み合わせ



## 5 「はかる」技術で社会に貢献



落葉果実、トマト、各種柑橘類に対応する選果機「Rollerstar(ローラスター)3」

私たちは計量装置の総合システムメーカーとして、さまざまな計量するための器具や機械、装置を作ってきました。「はかり」は正しく計量したことを第三者に証明する商取引の源であり、「はかる」技術は生産の合理化や省力化の実現につながります。当社の長年にわたる豊富な経験と計量の技術は、農業、工業、物流といったさまざまな産業分野で活用されています。その用途も一つひとつの果実や野菜から、大型プラントまで多種多様です。私たちは高度なはかる技術で、今後も産業振興や技術革新の基盤をつくり、社会に貢献してまいります。